

道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会

事務局 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2

北海道開拓記念館内

電話/011-898-0456・FAX/011-898-2657

道内博物館等施設の将来を思う —道博協会長退任のご挨拶を兼ねて—

大雪に見舞われた北海道も漸く春の気配が感じられる季節になりました。この道博協ニュースが皆様のお手元に届く頃は素晴らしい季節になっていることでしょう。

道博協加盟会員の皆様におかれては、経済環境の厳しさにより博物館運営に日々御苦労が多いことと存じますが、会員相互の連携協力により難局を乗り越えて下さるよう念じております。

さて、私事で恐縮ですが、私は本年3月末日をもって北海道開拓記念館館長を退任致しました。それに伴い、北海道博物館協会会長、日本博物館協会理事・北海道支部長の職も辞すことになり、3月中に開催されました道博協と日博協のそれぞれの理事会において退任のご挨拶をしたところで、平成14年から3年10ヶ月、道博協の役員、事務局の皆様をはじめ日博協、各博物館関係者の皆様には大変お世話になりましたことに心から御礼を申し上げます。

大学以外の世界を知らなかった私にとって、博物館関係の仕事の一端に触れる機会を得て貴重な経験をさせて頂きました。如何に優れた研究をしても、博物館はお客様が来て下さらなければ成り立ちませんし、大学もまた学生がいなければ存在し得ません。双方の共通点は、経営環境が益々厳しくなること、研究の成果をどのように生かすかが問われるところだと思えます。大学が時代の要請に応じた魅力あるカリキュラムを提供し教授法の工夫も凝らさなければならぬのと同じように、博物館もわかりやすい展示を通じて人々の感動と新たな好奇心を呼び起こす工夫を必要とします。

このようなことから、私にとっては博物館も大学も基本的には教育・文化を支える同じような施設であることを再認識しました。特に、博物館は知的好奇心を刺激するためには最も適した空間で

すから、出来るだけ多くの子ども達に来て欲しい場所であることを強く感じています。博物館と小中学校とがもっと強く結びつくような仕組みが不可欠ですし、博物館側は、子ども達が一日中いても退屈しないような空間づくりをもっと心がけるべきではないかと思えます。

いま公設博物館は自治体の経済環境の悪化による予算削減により冬の時代にあると言われます。日本博物館協会は幾つかの調査研究を基に、21世紀の望ましい博物館像を示す「対話と連携の博物館(平成13年)」、「博物館の望ましい姿—市民とともに創る新時代博物館(平成15年)」という冊子をつくるなどして博物館の活性化を図る努力を重ねています。

しかし、国立の博物館はすでに法人化され、地方公設博物館は指定管理者制度の導入あるいは検討を迫られるなど、既設の博物館等施設は対応に苦慮していることも事実です。一方で九州国立博物館が開館しましたし、新たな博物館が少なからず立ち上がっています。競争激化は企業や大学のみならず博物館にも及んできました。

仮に経済が上向きになったとしても、この「冬の時代」は長く続くかもしれません。国全体が経済優先の考えにとらわれすぎて、最も大切な教育・文化の底上げに対する認識が不足しているように思えてならないからです。いまの官から民への流れのあり方や多くの分野でのモラルの欠如などをみると、日本はまだとても先進国とは言えないレベルにあると思わざるをえません。改革は必要ですが、変えなければならぬものと、変えてはいけないものをきちんと区別する見識がないと単なる破壊になってしまう恐れがあります。

博物館の将来は決して平坦ではないと思えますが、道博協の皆様との強い結束によって冬の時代を乗り越えて下さることを祈っております。

(前北海道博物館協会会長 山田家正)

石狩・後志・
空知地区
News

木田金次郎美術館にとっての 指定管理者制度

現在多くの博物館施設において深刻かつ重要な話題となっている指定管理者制度。公立博物館にとっては、制度自体が施設の存在意義を脅かすような側面も問題視されている。

ところで、1994(平成6)年に開館した木田金次郎美術館は、町の直営施設ではない。開館以来「岩内美術振興協会」という団体が、町から委託を受けて管理運営を行っている。こうした形態は、この美術館の設立が町民有志による美術館建設運動を発端としているからであり、故に町民の意思を運営に反映させようとしているからである。よって、指定管理者制度の一側面を11年前から実践している事例とも言える。

そのような折、「木田美術館 冬期休館へ」という見出しの記事が掲載された(『北海道新聞』2月7日朝刊)。岩内町が赤字財政団体への転落を回避するためにまとめた「行政改革大綱」の中で、19年度からの美術館冬期休館を盛り込んだのである。判断基準は冬期間の入館者数。数字のみの判断で、冬期間の公募展「ふるさとこども美術展」

開催など、美術館の社会教育的役割は考慮の外に置かれている。

むろん、多くの町民、議会にも異論は多い。冬に当館を訪れる人は、真の木田ファンであり、この館を目的地として本州から訪れるケースも少なくない。また、こうした来館者が町に及ぼす経済効果も軽視できない。

この冬期休館の問題では、指定管理者制度の導入についての考慮がなされていない。様々に問題視されている制度であるが、木田金次郎美術館のケースに当てはめると現状に近い側面が多いのである。岩内町では条例整備の関係で指定管理者制度の導入が9月からとなる見込みであるが、現時点で「岩内美術振興協会」は指定管理者への指名を目指し、通年開館を目指す方向を探っている。

開館以来、岩内の多くの方に支えられてきた木田美術館。その理念をこれからも変えることなく、来る指定管理者制度の導入を迎えようとしている。「みんなで創る美術館」としての自負を持って。

(木田金次郎美術館 学芸員 岡部 卓)

道南ブロック
News

4月1日五稜郭タワーが生まれ変わる!

昭和39年の開業以来41年間にわたり特別史蹟五稜郭を俯瞰しながら箱館戦争について学べる展示施設「史蹟館」を有していた函館の観光名所のひとつとして有名な五稜郭タワーが、高さ60mから107mの新しいタワーに生まれ変わります。

新タワーの1階は売店、2階には喫茶店や飲食テナント。高さ90m部分に収容人数が現在の約100人から約500人となる2層の展望台があります。新展望台と塔体は五稜郭をイメージした五角形を取り入れた形になっています。

また、30人乗りのエレベーターが2基設置されそれぞれ五稜郭の歴史を体感できる演出が施され、1階エレベーターホールには、50インチのディスプレイを設置し五稜郭の歴史と四季の移り変わりなどがわかる映像を上映しています。

2層ある展望台の1階には、カフェスタンドと展望売店が設けられています。また、床面の一面を強化ガラスで覆い、展望台の真下を見ることができ、空中浮揚の気分が味わえます。展望台の2階は、『五稜郭歴史回廊』という展示施設です。こ

こには250分の1に縮尺した幕末当時の五稜郭の復元模型や「五稜郭物語」という古写真や年表・絵図面で解説しているコーナーがあります。また、ペリーの箱館来航から箱館戦争、函館氷の切り出しまでの五稜郭に関わる歴史の場面を16景の精巧なジオラマで再現している「メモリアルボール」もあります。ほかにも五稜郭の歴史や構造などをパソコンで検索しながら学べる「五稜郭ガイド」や視覚のご不自由な方にも体感できる「さわれる五稜郭」「さわれる五稜郭タワー」という模型も用意しています。

五稜郭の眺望とともに歴史を学べる施設として旧タワー以上に期待されています。



(知内町郷土資料館 学芸員 高橋豊彦)

道北3管内
News

町内に残るうだつ壁調査から

増毛町の駅前通りには昭和初期に建てられた建造物がまだ多く残っており、これらは「増毛の歴史的建物群」として北海道遺産にも登録されています。旧旅館の富田屋、風待食堂（旧多田商店）、増毛館、志満川食堂、旧商家丸一本間家などで、他にも増毛小学校などが含まれています。こうした増毛の古い建物を眺めていると、隣家との境にあたる部分の壁が屋根よりも一段高く張り出しているのつくりを見ることができます。古い日本家屋の特徴の一つで「うだつ壁」と呼ばれるもので、火災の類焼を防ぐ防火壁の役割をもっています。最近町の広報内の記事でこのうだつ壁を紹介する機会があり、カメラ片手に町中を歩いてみたのですが、昭和初期以降の木造建築にも一部でこうした構造が残っていることがわかりました。増毛町においては、明治から昭和にかけて何度か大火が発生しました。永寿町2丁目付近は明治13年、26年、大正14年、いずれも30戸以上が被災しており、他にも畠中町は明治40年と昭和7年、弁天町は昭和6年に大火に遭いました。駅前通りの建物に昭和7・8年築のものが多いのは、直前の昭和6年

に大火で大部分が焼き払われているからです。重要文化財に指定された旧商家丸一本間家は明治35年頃に店舗や居宅・蔵など一群の建造物を完成させましたが、明治13年の永寿町の大火で店舗が全焼した経験から、徹底的な防火対策を講じました。東側の壁には大きなうだつ壁を設け、西側の道路に則した面は全て石造りの壁で覆われています。備えの甲斐もあって昭和6年の大火の際にはうだつ壁のおかげで類焼を免れています。市街地周辺で現在確認できただけでは、本間家の他に4箇所ですうだつ壁が残っているようです。江戸時代の商家では厚みを増し、屋号を刻み豪華な屋根を取り付けるなどして、半ば装飾的な面が強くなっていましたが、町内に見るうだつ壁は防火という実利性を重んじたシンプルな造作のものです。うだつ壁を建てるということはそこに守るべき家族や財産があるということで、一人前として認められることにつながり、そこから、出世ができないことを「うだつが上がらない」と言うようになったそうですが、増毛に残るうだつ壁にも、そんな家主のプライドが込められているのかな、と思いました。

(増毛町総合交流促進施設「元陣屋」 学芸員 小野卓也)

日胆地区
News

平成17年度新春特別展

「松前藩～その政治・経済・文化～」を開催

江戸時代を通じ、蝦夷地を実効支配していた松前藩では、当時の藩財政の基盤となっていた米がとれなかったため、幕府からこれに代えて、蝦夷地でのアイヌ民族との交易の独占を認められました。ここから松前藩は「無高の藩」と呼ばれ、他の地方とは異なる世界を生み出します。

城下の近江商人を通じて、この交易で富を得、商人たちが軒を列ねた松前、ニシン漁で賑わう江差、昆布の産地である箱館は、松前三湊として繁栄を築きました。18世紀末に松前を訪れた古川古松軒は「家々は都のようにきれいで、衣服などの人々の様子は上方にも劣らない」と書いています。

しかし、その栄華の陰で過酷な収奪に苦しめられたアイヌの人たちは、寛文9年のシャクシャインの戦をはじめとして和人の横暴に抵抗、とりわけロシアの南下の中で起きた寛政元年のクナシリ・メナシの戦は幕政をも揺るがし、これを背景に同藩は奥州梁川に転封され、蝦夷地は幕府が直接治めることになりました。松前藩は後に許されて松前に戻りますが、世界情勢は蝦夷地にも深く影を落とし、松前は幕末の激動へと向かいます。

本展示会では、北海道唯一の城下町として、今年、築城400年を迎える松前町から本道を代表する数多くの文化財を借用し、松前藩とはいったいどのような経営をしたどんな藩だったのか、また、如何なる文化をもったのかなどについて表現、福山城の全貌を描いた小玉貞良画「松前屏風」や蠣崎波響作「桜下美人図」、アイヌとの交易を規制した「黒印状」など175点もの資料が町外で初めて公開されました。さらに松前藩をより深く理解してもらおうと、松前史研究の第一人者でもある松前町教育委員会文化財担当参事久保泰氏をお招きし、展示解説会を実施しました。

久保氏は、松前の歴史と蝦夷地支配の実態を説明し、また近江商人が所有する弁財船「長者丸」が藩主の参勤交代や蝦夷地と大坂を結ぶ交易の北前船として使用されたことなどについて展示資料を示しながら解説。桜の季節には福山城築城400年の様々な記念行事を計画していると来町を呼びかけました。

並んだ資料のどれもが松前のみならず北海道の第一級文化財であり、このような企画を快諾され、貴重な資料の数々をご提供くださった松前町と久保氏に改めて感謝申し上げる次第です。

(仙台藩白老元陣屋資料館 学芸員 武永 真)

道東3管内
News

道東3管内博物館交流推進会議 「シリエトクからの発信」を終えて

道東3管内博物館施設等連絡協議会では平成17年10月18・19日の日程で道東3管内博物館交流推進会議を羅臼町にて開催した。

第1日目は、羅臼町が平成17年7月に知床世界自然遺産の登録地に決定されたことをうけ、現在、知床が抱えている環境問題を中心に各管内の自然に関する調査結果やトピックについて事例報告があった。

今回の基調講演には石川幸男氏（専修大学北海道短期大学教授）を招き、「知床半島における植物と植物群落の現状—世界自然遺産としての課題—」と題し講演を頂いた。

知床半島の植生調査から、原始性の高かった植物群落が消滅しかかっているのに対し、外来種が群落化し増加していることが報告された。その結果、植生の変化が動物相の変化にも影響していることを指摘した。

植生変化の原因としてエゾシカの食害や観光客の増加があげられる。特に増えすぎたエゾシカの食害は植生に対して深刻なもので、エゾシカの間引きについては参加者から活発な意見が出た。

また、世界遺産登録後、エコツアーの利用客も増えており、自然の適正利用についてルール作りが必要であるとした。

2日目は知床峠や羅臼町内の博物館施設の見学を行った。そのほか、エゾシカの囲いワナも視察した。視察したエゾシカの囲いワナは現在、羅臼町、根室市で稼働している。

今回の会議は、根室管内に居住する我々にとっては特に身近な問題として感じることができた。ヒトと自然のかかわりについて、博物館活動の中でどのように説明し、普及するかを考える良い機会であった。

（根室市歴史と自然の資料館 学芸員 猪熊樹人）



参加者一同知床峠にて

網走管内
News

直に世界遺産知床にふれる～ 「流氷の海の動物観察会」から

知床は昨年7月に世界自然遺産に登録されました。世界的な絶滅危惧種を含む多様な生物が生息していること、流氷が育む海の生態系と原生的な陸の生態系が一体となっていること、その二つが世界遺産になった理由です。知床博物館では知床の特徴をよく知ることのできる観察会として流氷期の動物観察会を20年前から継続してきました。

今年の「流氷の海の動物観察会」は2月25日に知床博物館と羅臼町教育委員会との共催で子供たちを対象に開催されました。この日は羅臼港の少し沖に流氷帯が細長く漂っていました。港を出た観察船は冷たい風を切りながら流氷帯に近づきます。流氷の上には絶滅危惧種のオオワシとオジロワシが多数止まっていました。ロシア極東のオホーツク海周辺で繁殖するオオワシの生息数は6000羽程に過ぎません。2000羽を越えるオオワシが北海道で越冬しますが、知床半島周辺は最大の越冬地となっています。オジロワシは北海道で繁殖し1年中ここで過ごすものとロシアで繁殖し北海道へ南下して越冬するものとがいます。2月はこれらのワシ類が最も多く見られる季節です。

流氷帯の中の開いた水面からはアザラシが顔を出して船の方を見えています。漂う氷板を押し分けて流氷帯の中に入って行くとたくさんのゴマフアザラシが氷の上に寝そべっていました。その数は200頭ほど。船が近づき子供たちのにぎやかな声が聞こえたのか頭を上げてこちらを見る個体もいますが、再び昼寝を続けるものがほとんどです。ゴマフアザラシは知床周辺の流氷の上で3月末から4月上旬に出産します。

流氷の海は生き物でにぎわう海でもあります。この観察会は地元の子供たちが世界遺産知床の生の自然に触れることができる観察会です。

（斜里町立知床博物館 館長 中川 元）



流氷上の動物を船上から観察する

動物園・水族館
News

円山動物園の新施設紹介

平成17年度に竣工した2つの施設について、紹介します。

1、新動物病院

昭和54年に建てられた、動物病理研究室の役割を引き継ぐ施設で、新動物病院は鉄筋コンクリート造り平屋建て、床面積375平方メートルで、昨年12月から使用が開始されました。

大きな特徴は、以下の3つです。

①種の保存事業の充実

希少動物の精液や卵子を凍結保存し、人工授精など先端技術の確立を目指すとともに、種の保存に貢献する。

②検疫入院機能の充実強化

在来の飼育動物や飼育員への感染症を防御することができる。

③環境教育の充実

診察室を外部から観察可能とすることで、動物の治療を通じて、生命の尊さや希少動物の保護、動物園の役割など、環境学習の場としての機能を持たせる。

2、展望レストハウス

サル山に隣接しており、収容人員130名、2階建て、延べ面積290㎡の施設です。

この建物を設計するにあたり、動物園職員が丸となって施設内容、配置等について何回も練り直し考え出したもので、遊び・学び・くつろぐ機能を併せ持っています。

子供たちが、幼児スペースなどで遊んでいる間、お母さんたちは、サルがえさを食べる様子を見ながらゆっくりくつろぐことができます。

また、ソーラーや風力発電が設置され、環境にやさしいものとなっています。

(札幌市円山動物園 園長 藤沢 武)



新動物病院の手術室

青少年科学館
News釧路市こども遊学館ワークショップ報告
『こども遊学館でたからものさがし』

“道東の厳しい寒さの中でも、子どもたちに思いきり遊ばせてあげられる場を”という市民の願いがかたちになり誕生した釧路市こども遊学館。館の外観は全面ガラス張りで、冬でもさんさんと陽の光が降り注ぎ、無料ゾーンに設けられた国内最大級の砂場では、子どもたちが夢中になって遊んでいます。そんな子どもたちのすっかり常夏のような格好になっている様子が、私たちの毎日の元気の源です。

こども遊学館は、科学館と児童館の機能を併せ持った複合施設となっており、市民と一緒に創り、子どもたちを育てていく“市民協働”をコンセプトに掲げて昨年7月9日にオープンしました。3月4日には、おかげさまで来館者数10万人を突破し、ますます市民の笑い声で満ち満ちた活気あふれる場になってまいりました。

市民にこども遊学館の活用に積極的に係わることの面白さを感じてもらおうこと。そして、こども遊学館が市民にどのように受け入れられ、活用していただいているかを知ることで、今後よりよい社会貢献ができる施設を目指すべく、3月5日に

『こども遊学館に秘められた可能性～科学館等の実践事例から学ぶ“新たな可能性”をもとめて～』と題したワークショップを開催しました。

市民約40人が参加し、私の海外研修報告の他、科学館等で活躍されている3人の講師をお招きして、実践事例を学んだり、よりよいコミュニケーションに欠かせない声の魅力について参加者自身に体験してもらいながら、こども遊学館の課題や魅力を見出しました。さらに、夜には食事をしながら語り合う場としてレセプションを開催し、普段とは一味違う雰囲気の中、一層市民との距離がぐっと縮まる時間を過ごすことができました。

こうして市民と一緒に考えて創り上げていく。みなさんから寄せていただいたアイディア満載の意見は、私たちに指針を与え、何よりの励みとなります。“遊び”と“学び”の両面に、“市民協働”という側面で創られていくステージがここにあります。利用者一人ひとりが、こども遊学館で楽しい思い出を積み重ねていけるよう、そして今後ますます市民に様々なかたちで利用していただけるよう、今回寄せられた声を大切に受け止め、反映してまいります。ぜひみなさんもこども遊学館で自分なりのたからものをさがしてみませんか？

(釧路市こども遊学館 学習担当 高橋香織)

道美学芸研
News

第14回北海道美術館 学芸員研究協議会報告

3月2日・3日の2日間にわたり、北海道立近代美術館映像室において、第14回北海道美術館学芸員研究協議会が開かれました。全道の美術館学芸員及び博物館学、美術史学研究者からなる28館2大学の60人の会員のうち47人が出席、さらにオブザーバーとして2人が参加しました。

今年のテーマは「美術館運営の課題と取り組み」。初日は、笹野尚明会長のあいさつ、総会に引き続いて、奥岡茂雄館長（札幌芸術の森美術館）が、「一学芸員の昨日、今日、明日—美術館と文化と行政と」と題して、自らが出会った5人の人物を中心に美術館学芸員としての心構えについて講話をしました。その後、過去に話し合ったテーマに対して、それぞれの館がどのように取り組んだかの事例が報告されました。平成12年度のテーマ「美術館の評価」については、野外美術館での来館者意識調査を行ったことを札幌芸術の森美術館吉崎学芸員が報告。平成15年度の「美術館の連携」には、網走市立美術館の古道谷学芸員から、共同展覧会を計画したが助成金が受入方法の問題で得られなかったことについて報告がありました。平成14年度の「美術館と大学」については、北海道

立近代美術館と連携プロジェクトを進めている北海道教育大学の佐々木けいし助教授に、アートマネジメントなど新たな取り組みを語ってもらいました。

二日目は、指定管理者制度に話題が集中しました。特別講話は、古家昌伸氏（北海道新聞社文化部記者）による「変わる？公立文化施設」。前日まで出張取材していたという島根県立美術館と長崎県歴史文化博物館が、それぞれ異なるかたちで民間企業の参入による運営をはじめてからの最新の状況を話してもらいました。

その後、北海道において17年度からすでに導入している北網圏北見文化センター、18年度からの指定業者が内定した北海道開拓の村、北海道立釧路芸術館、札幌芸術の森美術館などの報告と、岩内、網走での動きなども紹介されました。身近で関心の高いテーマだけに、時間をオーバーするほど活発な意見が飛び交いました。

指定管理者制度は、まだ始まったばかりであり、この制度による大きな変化が出てくるのは数年後のことでしょう。今後も引き続き、その動向を見据えながら協議していきたいという佐藤友哉副会長の挨拶で幕を閉じました。

（札幌芸術の森美術館 学芸員 吉崎元章）

学芸職員部会
News

情報・話題・動き

平成18年度学芸職員研修会

平成18年度の学芸職員研修会は北海道大学総合博物館を主会場に開催することになりました。振り返ってみれば大学における研修会は、昭和53年に北海道立近代美術館で開催された第1回研修会以来初めてのことです。テーマは調整中ですが、自然史系を中心とを考えております。大学博物館の特色が出せるテーマの設定になればと思っております。開催期日は10月12日と13日を予定しております。

今どきの地方美術館

すべてがそうだとは言いきることができませんが、小さな自治体が運営している地方の美術館にあっては、財政難を理由に存続そのものが危ぶまれているところも少なくありません。確かに、ここ数年間の入館者数は減少し続けており。「人は何故、美術館へ足を運ばないのだろうか」と考えてしまいます。数ヶ月前の新聞記事に、木田金次郎美術館冬期間閉館か、とありました。3ヶ月間閉館するとおおよそ300万円以上の維持経費が削減さ

れるそうです。結論は未だ出ていないようですが、遅かれ早かれわが町もそのような状況になるやも知れません。先ごろの議会でもこの辺のところを厳しく追及されたばかりです。減少する来館者を増やし、魅力ある楽しい美術館にしようと、5年前から共同企画展の取り組みを行なっている地域があります。しりべしミュージアムロードと称した地域です。共通のテーマにそって、3ないし4つの美術館が同じ期間に展覧会を開いています。それぞれの美術館が所蔵する作品の相互貸出によって、それぞれの美術館で複数以上の画家の作品が楽しむことができる魅力があります。期間中、ピングゲーム方式のスタンプラリーやワークショップ、割引制度、ナイトオープン（昨年はピアガーデンを開いた館も）など楽しい美術館を標榜した催しを行なっています。もちろん、かかった経費はそれぞれの美術館で等分負担で賄い、通常の展覧会よりも割安な経費になっています。

奇をてらうことなく、蓄積された資料をもとに学芸員が付加価値を見だし、ありのままに見ていただくことが、本来の姿だと思います。地域から乖離したら、成り立ちません私たちの施設は。

（小川原脩記念美術館 館長 矢吹俊男）

館・園の主な展覧会と普及事業

(2006年4月～7月)

石狩

- いしかり砂丘の風資料館(0133-62-3711)
 4/16 野外講座「石狩ビーチコーマーズ」
 4/～5/ テーマ展「砂と砂丘」
 6/3 「石狩大学博物学部」(仮称)9/迄、4回
 6/17 体験講座「地層をしらべる」
 7/～8/ 体験講座「土器作り教室」
札幌芸術の森美術館(011-591-0090)
 4/15～5/28 北の創造者たち展10th Anniversary「Lovely～らぶりい～」
 6/3～7/30 「紫の雨—福井爽人の世界」展
北海道開拓記念館(011-898-0456)
 4/22,5/20,6/17,7/22,8/5 体験講座「古文書に親しむ 初級編」
 4/23 講演会「野幌の森のアライグマ ～身近な外来種問題を知ろう」
 4/28～6/25 特別展「HORSE—北海道の馬文化—」
 5/3～7 「歴史発見!自然発見!ウォークラリー 2006」
 5/28 歴史講座「江戸時代の旅芝居一座の日記を読む その2」
 6/11 フォーラム「博物館の未来を語る」
 6/18 後援会「近現代のロシアにおけるサハリン史研究」
 7/1 講演会「石狩油田史」
 7/14～8/20 2006移動博物館「暮らしのなかのストーブ」(釧路市立博物館にて)
 7/15～9/18 テーマ展「産業資料を読む 2」
 7/29 公開講座「土佐のデコ芝居、浦臼へ—北海道文化のふるさと探訪—」(浦臼町にて)
北海道開拓の村(011-898-2692)
 4/29～5/7 GWイベント(4/30,5/4～5,5/7「大道芸人の実演」など)
 5/28 「第21回写真コンテスト撮影会・春」
 6/1～30 「切り絵で描く開拓の村散策」
 6/1～30 「むらの孔版画展」
 6/3 むらの講演会「『北の無名碑』加賀移民の足跡をたどって」
 6/11 「桶細工職人の実演」
 6/11,6/25 「伝統文化～野だて～」
北海道立近代美術館(011-644-6881)
 4/5～6/16 これくしょん・ぎやらりい(第一期)「北海道美術・この100点」ほか
 4/5～5/14 「伊藤隆道展」
 5/26～6/4 「水脈の肖像 06」展
 6/8～6/16 「JPS展(日本写真家協会)」
 6/24～8/20 これくしょん・ぎやらりい(第二期)「水辺の物語」ほか
 6/24～8/20 特別企画展「国宝鑑真和上展」
北海道立文学館(011-511-7655)
 4/29～6/4 写真展「写・文交響～写真家・綿引幸造の世界から～」
 4/29 文芸セミナー「ファインダーの向こうへ」
 4/22,5/5,6/3,7/8,8/8～9,8/12 「～わくわく～こどもランド」

- 6/10～7/9 共催企画「(デルス・ウザーラ) 絵物語展」
 7/22～8/27 特別企画展「石川啄木～貧苦と挫折を超えて～」
 7/22 文芸講演会「啄木の歌をどうよむか」

渡島

- 北海道立函館美術館(0138-56-6311)**
 開館20周年記念
 4/1～5/14 「僕らの小松崎茂展」
 5/20～7/9 「魅惑のシルクロード展」
 7/15～8/27 「日本近代洋画への道」

後志

- 荒井記念美術館(0135-63-1111)**
 4/16～7/9 企画展「ミステリアス ピカソ」
 4/16～8/20 西村計雄常設展「風にゆれる花々」
 7/11～9/24 企画展「ピカソからのメッセージ」
 7/12～8/20 ミュージアムロード共同展「しりべしの5つの星」
小川原崎記念美術館(0136-21-4141)
 4/13～5/21 「私が馴染んだ動物たち—犬—」展
 5/24～7/9 「ふるさととの山展—2」
 7/12～8/20 「しりべしミュージアムロード共同展」
おたる水族館(0134-33-1400)
 3/18～5/7 春の特別展「お魚たちのそっくりショー」
 7/27～28,8/4 「磯の生物観察会」
 7/30,8/6 「親子で参加 魚拓教室」
 7/31,8/1～2,8/7～9 「水族館体験隊」
旧日本郵船(株)小樽支店(0134-23-8484)
 4/25～5/28 第1回特別展「明治の小樽展」
 5/26 第1回特別展 講演・コンサート
 6/20～8/20 第2回特別展「小樽の歴史的建造物展」
 7/21 第2回特別展 講演・コンサート
余市宇宙記念館(0135-21-2200)
 4/15～10/31 特別展「宇宙旅行へ行こう!」

空知

- 富良野市博物館(0167-42-2407)**
 5/中旬～6/下旬 「盛本学史絵画展」
 年6回 「富良野の自然に親しむ集い」
三笠市立博物館(01267-6-7545)
 4/22～5/28 「福岡幸一 アンモナイト版画展」
 6/18,7/23,7/29,8/6 「自然観察講座」
 7/15～10/9 特別展「インドのアンモナイト」(仮称)

上川

- 中川町エコミュージアムセンター(01656-8-5133)**
 7/28～10/29 特別展「貝」(仮)
 7/27～7/30 「森の学校Jr 06夏」
中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館(0166-52-0033)
 4/8～7/2 「収蔵品展～手で観る彫刻展」
 7/8～8/27 「あさひかわの彫刻家 板津邦夫版画展」
 7/下旬頃 「こども彫刻教室」
 7/～9/頃 「彫刻散歩」

名寄市北国博物館(01654-3-2575)

- 4/27～5/11 「野外植物展」
 5/13～5/28 「合併記念パネル展」
 5/31～6/11 「『風花』風景画作品展」
 6/15～6/25 「松本冬水能面展」
 7/22～8/27 特別展「白樺」

北海道立旭川美術館(0166-25-2577)

- 4/1～7/2 所蔵品展「新収蔵品展」
 4/8～5/14 特別展「谷内六郎の軌跡展」
 4/22 「ミュージアム・シアター」
 5/20～7/2 特別展「ぼくらの小松崎茂展」
 5/27 「ミュージアム・シアター」
 7/8～8/27 特別展「板津邦夫展」
 7/8～10/22 収蔵品展「現代の具象—絵画と彫刻」

胆振

室蘭市民俗資料館(0143-59-4922)

- 4/29～6/11 企画展「新着資料 大工道具展」
 5/5 「民俗資料館フェスティバル」
 6/9 「科学・歴史・文学めぐり」(1回目)
 7/ 「戦跡めぐり」(市民見学会)

苫小牧市博物館(0144-35-2550)

- 4/22～5/28 企画展「音のある風景」
 7/22～8/27 特別展「昭和のくらし～我が家にテレビが来たころ～」
 4/～10/ 「紙の工作教室」

むかわ町立穂別博物館(0145-45-3141)

- 4/14～5/21 企画展「寄贈された化石展」
 7/15～9/3 夏季特別展「むかわ町の貝と貝化石」

日高

沙流川歴史館(01457-2-4085)

- 4/25～6/25 企画展「平取町ゆかりの偉人—松浦武四郎—」展

十勝

おびひろ動物園(0155-24-2437)

- 4/29～5/21 春の特別展「ニホンザル」
 6/24 「幼児・児童動物画コンクール」
 7/2 「おやこ動物ふれあい教室」
 7/28～8/20 夏の特別展
 7/31～8/10 「一日飼育体験」(計8回)

北海道立帯広美術館(0155-22-6963)

- 4/1～19 「迷宮美術館ミステリー・ツアー」展
 4/1～7/6 「HOKKAIDO—こころの風景展」
 4/28～7/6 「バルビゾン派から印象派」展
 7/15～8/30 「魅惑のシルクロード展」
 7/15～8/30 「ポスターに見る旅への誘い」展

釧路

釧路市子ども遊学館(0154-32-0122)

- 通年 ファンクラブ事業

標茶町郷土館(01548-7-2332)

- 7/22 郷土館講座「縄文土器工房」
 北海道立釧路芸術館(0154-23-2381)
 4/29～6/28 特別展「布が伝える 和のこころ」
 7/8～9/6 特別展「パリを愛した画家たち」

根室

根室市歴史と自然の資料館(0153-25-3661)

- 4/5,4/19,5/10,5/17,6/7,6/21,7/5,7/19 「藤野家文書解説会」
 5/13 「史跡見学会」(チャシ跡)
 6/1,6/29 「星座観察会」
 6/4 「自然観察会」
 7/21 「コウモリ観察会」

事務局日誌

平成17年

- 9/1 第2回役員会開催(白老町)
 9/1～2 ミュージアム・マネジメント研修会開催(白老町)
 9/9 第2回役員会資料・第44回北海道博物館大会報告書の送付
 9/16 道博協ニュース第85号の原稿執筆依頼
 9/16 名義後援の承認
 9/16 第44回北海道博物館大会の事業報告
 9/27 学芸職員部会研修会の礼状送付
 10/5 網走管内博物館連絡協議会に対して交付金を送付
 10/26 道東3管内博物館施設等連絡協議会に対して交付金を送付
 10/28 平成18年度北海道博物館協会表彰申請関係書類を送付
 12/14 平塚至氏より、年度末を以て退会との通知(個人会員)
 12/15 会費未納会員に対する納入請求を発送

平成18年

- 1/27 平成17年度北海道博物館協会表彰候補者関係書類を表彰担当役員に発送
 1/27 日本博物館協会へ平成17年度支部助成金を請求
 1/27 北海道博物館協会学芸職員部会の役員改選の報告と協会役員交代
 1/27 砂原町郷土館、真狩村羊蹄ふるさと館より、年度末を以て退会との通知(団体会員)
 1/27 道北地区博物館等連絡協議会に対して交付金を送付
 2/3 平成18年度各館園展覧会・普及行事等調査票を発送
 2/3 平成17年度第3回役員会の開催通知
 2/3 会費未納会員に対する納入請求を発送
 2/7 道南ブロック博物館施設等連絡協議会に対して交付金を送付
 2/7 北海道博物館協会会員証の印刷発注
 2/7 「組織財政に関わる検討委員会」関係先に対しての出席依頼
 2/26 「組織財政に関わる検討委員会」会議開催(札幌市・ホテルポルスター札幌)
 3/15 学芸職員部会、美術館協議会、青少年科学館、動物園・水族館・植物園協議会への交付金送付
 3/23 平成17年度第3回役員会を開催(札幌市・KKR札幌)